

の地主とは、他ならぬ日本を象徴していいる。ご
ある。庶民の权力に対するエヌルギーの一端を
がりま見た思いがした。

翌日、朝からマイクロバスで全羅南道の光州
に向った。三日前の光州の運動を犠牲となつた
人々のみ墓に参るためであつた。光州市街より
車で四十分程、北西へ行つたところにある市民
公園墓地一角にそのみ墓はあつた。墓地には
一回三人の犠牲者が葬られてゐるが、一九八〇
年の光州の運動につけて立札や掲示は一切な
い。ただ死亡毎日を刻んだ墓碑を見ると、刻
されがわかるだけだ。そのみにたりだけ一九八
〇年五月何日とあるのでそれがあかるだけだ。
韓国政府は光州の墓地
がソウルの四・一九墓地のようじ民主化運動
を進めている人々のメモ力となることを恐れ
て様々なことをしてり
る。光州の墓地に掲示
を出させないのもその
一つだうが、もつと

(木の立ちは日本不詳者)

(光州市民公園墓地の一隅にある犠牲者の墓)

露骨に、遺族に金を取つてお墓を移転するよ
うにすこしここりるのである。毎年一人で四人
の家族が、それそれ政府から一千万ウォンをう
けとりお墓を別の場所に移してゐる。

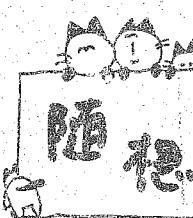
今、光州に三日前の運動に参加したため解雇
され今はお世就職が出来ない先生らが三十人、傷
害者を負つて治療を続ける者やハム、傷
つき瓶につけない着五四六十人がいるという
難な状況を廻きとき、一千万ウォンをもうつて
墓を移した遺族を誰もせめることなんかできな
い。今年の五月には光州市内で二千人が参加して
記念集会が開かれた。キリスト教関係者が中川
市内の商店前等でバスで回つて、死者の保護、負傷者の治療、被虐者
とつなげて、再び船を要求して運動が今も続いている。

一九八〇年当時、テレビのニュースで見た光
州最初は日本の大通りにはあまり自らになり
多々の義理満足でトキツとしたが、すぐにはい
たが光州であることに気がつき、トキツとした。
その後、一九八〇年以前からあつたものがも
う見ええた。



韓国を訪ねて

荒田 勝一



労働教会の礼拝堂に入つた。そしてタルチユム
が始まる。ストーリーは次のようだ。

今年の六月、五年ぶりに韓国を訪問した。二
度目である。今回も日本のキリスト教会の代表
の一人として日本韓国人農村宣教協議会に参加し
た。六月二二日から二四日まで永登浦産業宣教
会館で会議をして、その後二日間、現場研修のブ
ローブラシがあり、光州、清州、仁川を回つた。
その後、一日、時間がとれたので初めて慶州に
も行つてきた。

特に印象に残つたことを書いてみたい。

永登浦での会議はかなりハードスケジュールで、
工業化問題、在日韓国人問題等を討議したが、
最後の夜の韓国キリスト教長老会タルチユム宣
教會のタルチユムがおもろがつた。タルチユム宣
くは社会風刺等をもりこみながら仮面をつけて
踊る朝鮮の伝統的な芸能である。鳳山タルチユム
は、その最も有名なものとして知られてゐる。
タルチユム宣教會のタルチユムは、まず、度
での農業から始まる。度でひと踊りした後、そ
の農業隊は先導されて、その時は四階の永登浦

タルチユム宣教會のタルチユムは韓國の各地
で行われ、それが労働者農民への教育でもある。
体を許しながらも最後には妻が地主を殺す、そ
うしたついた。タルチユム宣教會のタルチユムは韓國の各地
で行われ、それが労働者農民への教育でもある。
体を許しながらも最後には妻が地主を殺す、そ
うしたついた。